

The image shows the front cover of a book titled "Nobunaga-san o Shirou". The title is written in large, stylized Japanese characters. The background features a silhouette of a horse in green and blue tones. A vertical text on the right side reads "中世のサムライヒーロー". At the bottom left, there is a purple rectangular box containing the text "第4回".

第4回

楠木正成の魅力を探る

## 奥河内に育まれた「学ぶ心」

阪南大学  
国際観光学部  
准教授  
和泉大樹

府から史跡の指定を受けて  
いる。ここでは、大江匡房の  
子孫である時親から兵法を  
学んだと伝えられている。

その場所である

観心寺は、大宝元年(701年)の草創と伝わる古刹で、平安時代の所産である本尊如意輪觀音菩薩や金堂をはじめとして、多くの国宝や重要文化財を持することでも広く知られている。少年時代の正成は、この寺院の子院である中院において、僧瀧覺から多くを学んだと伝えられている。

おいて、僧瀧覚から多くを学んだと伝えられている。

口を測る觀心寺から伝大江時親邸跡までの道のりを1日足りとも休むことなく、数年間、通つたと伝えられている。また、その道中、正成が渡つた橋があつたとされる付近（南海三日市町駅の北側）には、「楠公通学橋」という交差点名が残る。このように伝わる正成の学びは、「人から学ぶ」という学びであった。自らの足で僧龍覚や大江時親のもとへ通い、教えを請うた。こ

深めることとなり、ひいては、自身が教える側に転じることにもつながると考えられる。そして、この学びの連鎖は、「人をつなぎ、大切にする」ことにも通じるのではないだろうか。

このように考えれば、「人から学ぶ」という学びは、人間関係が希薄化の傾向にあるとされる現代社会においても有効に機能するのではないか。「楠公通学橋」の交差点を通るたび、あらためてそう思う。

駢の北側には「楠公通学橋」という交差点名が残る。このように伝わる正成の学びは、「人から学ぶ」という学びであった。自らの足で僧龍覚や大江時親のもとへ通い、教えを請うた。こ

このように考えれば、「人から学ぶ」という学びはあるとされる現代社会においても有効に機能するのではないか。「楠公通学橋」の交差点を通るたび、あらためてそう思う。

